

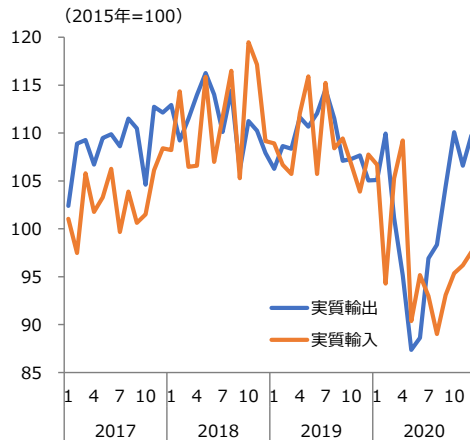
日本

貿易統計 (2020年12月)

## アジア向けが輸出を牽引、防疫措置長期化による外需縮小がリスク

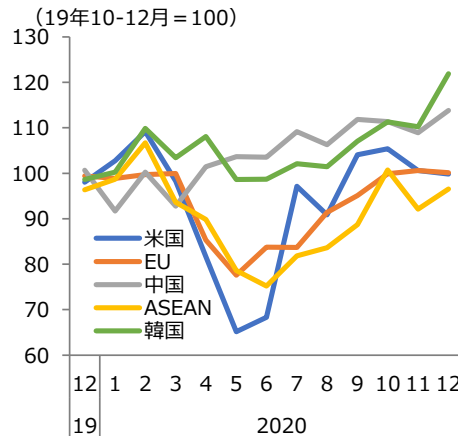
政策・経済センター  
綿谷謙吾  
03-6858-2717

## 1 実質輸出入



注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。  
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 2 実質輸出：国別

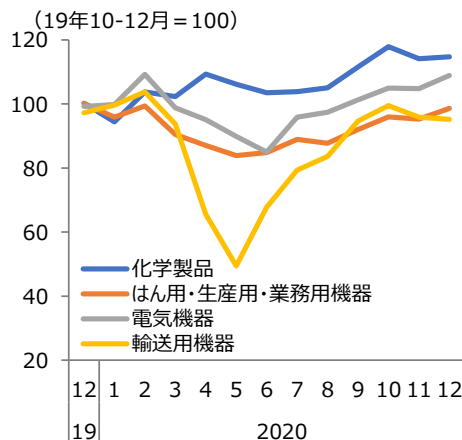


## 評価ポイント

## 今回の結果

- 20年12月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比+3.0%、実質輸入は、同+1.4%（図表1）。貿易収支（季節調整値）は、+4,771億円。輸出は国内外で感染が急拡大する中、コロナ前（19年10-12月平均）と同程度の水準を維持している。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、感染が拡大する欧米向けは微減も、アジア向け輸出が全体を牽引（図表2）。各国・地域ともに、コロナ前（19年10-12月）と同程度の水準まで回復、特に中国・韓国はコロナ前を1割程度上回る水準となっている。韓国向けは、日韓の輸出管理規制の影響からの反動もあるが、半導体製造装置の輸出が前年比で増加した。
- 品目別でも、コロナ前と同程度の水準まで回復（図表3）。中国やASEAN向けのはん用・生産用・業務用機器、電気機器が増加した。
- 20年の実質輸出は前年比▲7.4%。国・地域別にみると、中国向け輸出が前年を上回っており、コロナ禍で各国経済が落ち込む中、経済回復の早い中国が日本の輸出を牽引している（図表4）。

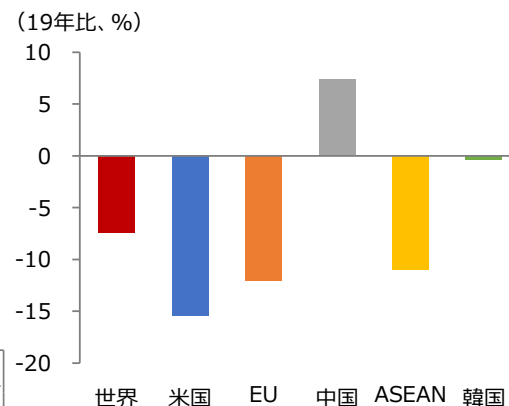
## 3 実質輸出：品目別



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 4 20年の実質輸出（前年比）



## 基調判断と今後の流れ

- 輸出は、感染が拡大する欧米が微減も、アジア向けが牽引し回復している。
- 先行きは、回復ペースの鈍化を予想する。輸出は海外経済の持ち直しにより回復、経済回復の早い中国を中心にアジア向け輸出は堅調に推移、米国向けは追加経済対策により需要が回復するとみる。ただし、感染が急拡大する欧州は回復ペースの鈍化が予想され、輸出回復の重石になる。また、半導体需給逼迫により、自動車の生産等にも影響があり、供給面の制約も生じつつある。
- 下振れリスクは、海外での防疫措置強化の長期化だ。欧米ではワクチンの接種が開始されたが、変異種の流行やワクチン普及に時間がかかることから、経済正常化には時間を要する。各国で感染急拡大が続く中、防疫措置強化が長期化した場合、海外需要が縮小、輸出の回復スピードも鈍化する可能性がある。